

事業所名

多機能型児童発達支援事業所そよかぜ

支援プログラム(参考様式)

作成日

R6

年

12月

27日

法人(事業所)理念		障がい児(気になる段階の児も含め)や家族に地域及び家庭との結びつきを重視した運営を行い、障がいのある子どもが地域の中で差別されることなくインクルーシブ社会の実現を目指します。								
支援方針		障がい児(気になる段階の児も含め)や家族に、一人ひとりの個性を尊重する児童発達支援の場を開放し、また訪問を行う。個別支援計画を立案し、対人コミュニケーションをはじめ運動、音楽、日常生活や遊びなど様々な体験を通して心身の成長を図ることを目的とする。								
営業時間		9時	0分	から	16時	0分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	基本的生活のスキルを獲得できるよう個別の特性や発達の過程に合わせサポートしながら出来たという実感に繋がり自立援助をする(食事・着脱・排泄等)生活の流れを具体的に絵カード、タイムタイマーで示しながら時間、空間の感覚を本人に分かりやすく知らせていく。健康状態を常にチェックし、個々の特性も加味しながら小さなサイン心身の異変に気を付けてきめ細かく観察する。								
	運動・感覚	身体の基礎能力を着けながら保有する感覚を十分に活用できるように色々な遊びを提供する。(ブロック・ままごと・追いかっこ・体操・鉄棒・マット・ブランコ・トランポリン・粘土・絵の具・水遊び・造形・リズム・楽器遊び)感覚の保持や動きの不安定な場合は補助手段を活用支援する。感覚の特性を配慮し、環境調整の支援を行う。								
	認知・行動	環境から情報を取得しそこから必要なメッセージを選択し行動につなげる。具体的な伝え方のモデルを大人が見せ促していく。(絵カード・タイムタイマーも利用)認知の手掛かりとなる概念形成の為、数・形・重さ・色・音・空間に気を付けるよう働きかける。音、距離感、こだわり行動、偏食、等個々の特性に配慮する。感覚、認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生じる行動障害の予防、適切行動への対応の支援をする。								
	言語コミュニケーション	本人からの表出や要求に可能な限り応え、伝わったことの楽しさを伝えていく。(歌・絵本・手遊び・朝、帰りの会・サインのキャッチ等)事物や体験と言葉の意味を結びつけながら自発的発声を促す。指差し、身振り、アイコンタクト、サインを用い環境の理解、意志の伝達出来るように支援する。(記号・絵カード・歌・手遊び)生活の中で一緒に楽しみ気持ちの伝わる嬉しさを言葉や態度で伝え、人と関わる意欲を持つ。								
	人間関係社会性	集団に参加するための手順やルールを他児の様子に目を向け、具体的に大人に示したりしながら支援する。(あいさつ、ルールをまもる、相手の気持ちに気付く、我慢する)人との関係を意識し身近な人と関係を築き、信頼関係を基盤として周りの人と安定した関係を形成するための支援をする。感覚機能を使った遊びや運動機能を動かせる遊びから見立て遊び、つもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して徐々に社会性の発達を支援する。								
家族支援		事業所内相談(毎月)、保護者研修会、親子造形教室、慣らし保育(母子通園)、家庭支援プログラム「ToHeart」、送迎			移行支援		並行通園会議(移行先の見学、日数の調整、子どもの情報、親の意向等の伝達、援助方針、支援内容の共有等)			
地域支援・地域連携		保健センター、子育て支援センター、幼稚園・保育園との連携、田・畑を通して地域交流、親子教室「あいあい」、親子ひろば			職員の質の向上		法人研修(救急救命、心理学) 「ToHeart」の研修			
主な行事等		七夕会、水遊び、芋ほり、親子造形教室、クリスマス会、足湯(ゆず)、消防避難訓練、節分会、ひなまつり会、おおきくなったね会、畑作り								